

## 磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会記録

(第1回審議会)

会議日時	令和2年11月12日(木) 午後3時00分 開会			
	午後4時25分 閉会			
場 所	オンラインにより開催			
出席者数	委員定数 6 名中 出席者 6 名			
出席委員	小田 理恵子		玉置 真悟	
	小澤 綾子		五十嵐 大輝	
	尾崎 えり子		中嶋 貴子	
欠席委員				
出席した者	磐梯町長	佐藤淳一	地域おこし企業人	星 久美子
	磐梯町 CDO	菅原直敏		
	デジタル変革戦略室長	穴澤竜一		
書 記	デジタル変革係長	長 泰志		
付議事件	<p>磐梯町官民共創・複業・テレワーク審議会</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>① 磐梯町の官民共創の取り組み</p> <p>② 磐梯町の複業の取り組み</p> <p>③ 磐梯町のテレワークの取り組み</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>① 開催通知、情報共有におけるチャットツールの活用について</p> <p>② 提供資料等のペーパーレス対応について</p> <p>③ 審議会のオンライン配信とアーカイブ化について</p> <p>④ 磐梯町の官民共創の取り組み</p> <p>⑤ 磐梯町の複業の取り組み</p> <p>⑥ 磐梯町のテレワークの取り組み</p> <p>(3) その他</p> <p>次回(12月)審議会の開催について</p>			
会議の概要	(別記のとおり)			

## 【会議の概要】

- ・ それでは定刻となりましたので審議会を開催させていただきますが、始まる前にこの度、磐梯町官民共創複業テレワーク審議会委員をお願いすることになりました皆様方に委嘱状の交付をさせていただきます。(穴澤)
  - ・ ご紹介を兼ねまして、私の方からお名前をお呼びさせていただきます。小田理恵子様、小澤綾子様、尾崎えりこ様、玉置真悟様、五十嵐大輝様、中嶋貴子様、以上 6 名の方よろしくお願いたします。それでは、代表いたしまして、小田理恵子様に委嘱状を交付させていただきます。小田様、委嘱状をお受け取り願います。(穴澤)
  - ・ 委嘱状、小田理恵子様、磐梯町官民共創複業テレワーク審議会委員に委嘱する。任期令和 2 年 11 月 2 日から令和 4 年 11 月 1 日まで。令和 2 年 11 月 2 日磐梯町長 佐藤 淳一。どうぞよろしくお願いたします。(町長)
  - ・ お受けいたします。ありがとうございます。(小田)
  - ・ はい、ありがとうございました。なお、委嘱状につきましては後ほど皆様に郵送でお送りいたしますので、よろしくお願いたします。  
それでは、官民共創複業テレワーク審議会を次第により進めさせていただきます。開催に先立ちまして、磐梯町長 佐藤 淳一よりご挨拶申し上げます。(穴澤)
  - ・ はい、皆さんこんにちは。磐梯町長の佐藤です。先ほど、マニフェスト大賞の報告会に出ておりました、この中に、今回の DX 戦略室ですが、これ自体が官民複業になっていると、当然 CEO も複業ですが、さらに官民共創複業テレワークを推進していく上でも、皆様の力をお借りしながら進めていきたいと思っておりますので、忌憚のない皆様の意見をいただきながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。(町長)
  - ・ それでは、続きまして役員を選出のほうに移らせていただきたいと思います。  
官民共創複業テレワーク審議会設置要綱の中身を説明させていただきます。第 5 条において審議会に会長及び副会長各 1 名を置き、委員の互選とするとなっております。会長、副会長につきましては、過日行われました顔合わせ会の中で、会長に小田様、副会長に小澤様をお願いしたいということで委員の方々から内諾をいただいているところでございますが、そのように会長副会長を選出させていただいてよろしいでしょうか皆様におはかり申し上げたいと思っております。(穴澤)
- (全委員、異議なし。)
- ・ それでは、会長に選出されました小田様よりご挨拶をいただきたいと思います。(穴澤)
  - ・ 皆様と一緒に、こちらの方でいろんな議論をさせていただければと思います。私は今日、三重県の津市から接続させていただいておりました、皆様もいろんな地域で繋がっている事と思いますが、ほんとにこういう風に全国からつながってオンラインで審議するという事はかなり画期的なことではないのかなと思っております。物理的な制約がなくなると次はどうやって価値を出すかという

ころの知恵とスピードの勝負になってくると思っていて、私たちどもの議論が磐梯町にとって素晴らしいものになって、それが日本全国に広がっていけば良いと思っておりますので、がんばらせていただきます。よろしくお祈いします。(小田)

・ はい、ありがとうございました。続きまして副会長に選出されました、小澤様よろしくお祈いたします。(穴澤)

・ 皆様、こんにちは、小澤綾子といます。私は筋ジストロフィーという筋肉がどんどんなくなる病気を抱えておまして、2年前から車椅子に乗っての生活をしております。もっともっと障害を持っている人たちも世の中で自分らしく生きられる社会を作っていきたいと思おまして、歌と講演の活動等もしております。今日も様々な方々が集まっておりますので、コラボレーションを楽しみにしております。磐梯町のために皆さん一緒になって頑張っていきたいと思おしております。どうぞよろしくお祈いします。(小澤)

・ ありがとうございます。それでは早速議事のほうに移らせていただきます。官民共創複業テレワーク審議会設置要綱第5条第2項の規定によりまして、議長を会長の小田会長にお願いしたいと思おしますので、小田様よろしくお祈いたします。(穴澤)

・ 議事を進めさせていただきます。磐梯町の官民共創の取り組みについてご報告お祈いします。(小田)

・ 官民共創の取り組み、複業の取り組み、テレワークの取り組みの3つを合わせてご報告申し上げます。磐梯町の最高デジタル責任者の菅原でございます。どうぞよろしくお祈いします。

官民共創複業テレワークの取り組みを説明する、その前段になります磐梯町のデジタル変革の取り組みと今時点での成果についてご説明申し上げます。磐梯町はですね、デジタル変革を誰もが自分らしく生きられる共生社会の実現のために行っているのですが、アウトプットアウトカムを意識して進めております。

こういった中で、今までどういったことをやってきたか、アウトプット、つまり、実績ベースで可視化をしますと、こういった形になります。

昨年の11月1日に私が最高デジタル責任者に就任いたしまして、ちょうど1年くらいこういった形で進めてきたのですけれども、仕組みの変革であったり、行政体としても役場の変革であったり、広報の変革であったり、これは組織は違うのですけれども、町議会の皆様自身が取り組まれたDXの取り組みであったり、地域、社会という取り組みであったり、さらには、官民共創ということで、DXを進めていくと役場のリソースだけでは対応しきれないところが多くありまして、民間のプレイヤーの皆様と共にやっていくという形で、そういった中でパラレルワークの複業みたいなものも入ってきますし、その前提には当然テレワークリモートワークみたいな、オンラインで誰もが集えるというかたちというものが極めて重要になってくるといううことで、そういった取り組みを実践的に進めております。

磐梯町の取り組みが様々なところに取り上げられている中で、広域的に会津地方で連携をしたりですね、磐梯町のやってるモデルを、全国に展開できていたらとも思おしております。

こういった中で、仕組みを変革していくところなんですけど、先ほどご説明を差し上げたように、2019年の11月1日に私は最高デジタル責任者ということで、日本の自治体ではおそらく初めての

CDO というものに就任いたしました。昨年、町長も変わったのに合わせて、総合計画もリメイクする形になりまして、この総合計画を今年の3月に議会の皆様にご議決いただいたんですけど、その項目の中に、誰もが自分らしく生きられる共生社会を実現するための手段としてデジタル変革を行っていくということを明記させていただきました。

したがって、行政議会双方の合意事項としてデジタル変革を進めているのが磐梯町の現状になってまいります。

この総合計画の項目の中に、デジタル変革戦略室という事務局を務めております私どもが所属しております組織の設置を条例を改正して設置をさせていただきまして、さらにそれを踏まえて戦略を作成して、その方向性の中でデジタルの変革を進めているというのが磐梯町の現場であります。

戦略室を設置してワークスペースをどこに置くかと当然議論になるのですが、私たちの戦略室は、完全リモート、完全クラウド、完全ペーパーレスという、おそらく民間でもなかなかないと思うデジタルネイティブな設計として始まっておりまして、オフィスも一応、役場の中ではなくてですね、living Anywhere 会津磐梯という大変素敵なワーケーションスペースがあるんですけども、そこにオフィスを設置するかたちになっております。ただ、ご承知のとおり、私も神奈川県から参加しておりますが、戦略室におけるメンバーが全国各地に散らばっていたりとかですね、自由に働いておりますので、このオフィスにいらなくても仕事ができるというかたちになっております。ちょうど渋谷のQWSから今日は五十嵐さんが参加されておりますけれど、渋谷QWSにもサテライトオフィスということも設けておりまして、磐梯町の人間がの渋谷を中心として東京圏をウロウロしているというのが今の磐梯町の状況でございます。DX戦略室の位置づけは右側にちっちゃくあるんですけども、町長・副町長の横に私が最高デジタル責任者として控えておりまして、その下に穴澤が室長として参加して、その下におさが係長としておりますけれども、全庁横断的な横串の組織として存在しているというのが私どもの戦略室になります。

これをさらに細かく見てみますと、私をトップとして縦にあるんですけども、最高マーケティング責任者であったりとかですね、あるいは、今日星が参加しておりますけども、LIFULLという企業から地域おこし企業人という民間枠でここに入って、フルタイムで参加をしてですね、星の方もですね、最近子生まれて子育てもしながらしかも結構自由にいろんなところから参加するみたいなかたちをやったりもします。プロパーな職員がいたりとかする中で、ポイントはこの中に官民共創複業テレワークというすべての要素が詰まっており、これが今の私どものかたちになります。

行政のデジタル変革というかたちなんですけれども、デジタル変革というと何か派手派手しいことをしてるようなイメージがありますが、1700ある自治体の中で最もICT化が遅れている自治体と自認をしております、残念ながらまだそのレベルにおりませんので、昨年より職員がちょうど正規で70人、それ以外の人たちを含めても100人前後の小さな町なんですけど、まずは全員研修を徹底的にやってですね職員のリテラシーを上げていくというかたちになっています。今日の審議会もオンラインでライブ配信をしておりますけども、これは係長の長が対応しておりますが、こういったことをできる職員を底上げをしてつくっていくというかたちも行っているところです。

そういった中で、磐梯町は町長の意向でコロナの前からオンライン会議をしていたのですが、コロナの中で加速しまして、定例の課長会議をオンラインでやってみたりとか、全国の自治体の議員さんがオンラインで視察に来るみたいなことをしているかたちとなっております。

そういった中で、DXはデジタルを使うよりも、組織変容が極めて重要でありますので、会津の藩

校の仕の掟をもじって、磐梯町は戦略室だけはルールを変えて「できない理由を並べてはなりません。」  
公務員の人は「できない。」「できない。」「できません。」って言うんですが、なんでできない理由を  
並べてはいけないかというと、DXは挑戦をしなければいけませんので、行動し挑戦をししなければ  
なりません。挑戦をすれば、失敗いうかミスも出てきますので、失敗を責めてはなりませんという  
かたちで、組織文化を変えるところから始めております。したがって少なくとも戦略室の職員にお  
きましては、このマインドが浸透していますので、いつもできる理由を探すようなかたちになって  
おります。そういったものを後方では、データの利活用をしてやることによって、例えばふるさと  
納税の寄付額もですねだんだんと上がっても右肩上がりになるとかですね。町議会会の皆さんもで  
すね、私たちより先にDXを進めていただきまして、日本で初めてオンライン議会を進めるみたいなか  
たちを実現をしてことをやっています。ここで大切なのは、誰もが自分らしく生きられる共生社  
会を作るためにデジタル技術を使っておりますので、当然オンラインでやる議会をやっていこうと  
なったのも、保守的な町ではありますけれども、10名のうち2名女性の議員がございまして、子育  
てしてる議員もいまして、そういった議員がやはり、時としてもお子さんがぐずって来れない時  
でも参加できるなかたちにするためにはどうしたらいいかなあという視点からこういった形になっ  
てる部分もございまして。

教育に関してもCIOに澤さんに就任していただき、トータルに授業をオンラインにするとかです  
ね宿題ペーパーレスにするとかいうテクニカルな話じゃなくて、そもそも宿題をみんなが一律に同  
じことやる必要があるんですかとか、そもそも学校に行かなければならないんですかみたいなこ  
ういった根本的な議論をしながらデジタル技術をもっとどう活用できるのかという議論を進めてお  
ります。

渋谷のQWSを中心にしながら、こういったかたちを進めていくと、様々な企業さんも関わって  
くださるようになりまして進めております。今、用意してるのが、磐梯町に関わる係るプレイヤー  
が様々な事業をやりたいという声が増えておりまして、これを官民共創で認定するプロジェクトを  
作れないかということも検討しておりますので、そういった部分も皆様のご意見をいただけたら  
と思っております。

その他、結構いろんなところでオンラインで今日は町長だったり、私であったり、時として室長  
であったり、いろんなところに講師として呼ばれて話をするなんてことも最近増えておりまして、  
今まで磐梯町取り組んできた地味な取り組みを今度は会津の地方の市町村全てで一緒にやってい  
けないかってことが県の方の指導で決まりまして、こういった取り組みも進んでいるというのが今  
の磐梯町の現状になっています。

テレワークに関してですが、私も戦略室のメンバーも全員そういったことができるリテラシーも  
能力も備えているんですけれども、今年度中に全職員がテレワークを体験するということを決めて  
おりまして、先程のワーケーションスペースでテレワークの研修を週2名ずつあ行ってもらうか  
たちになっております。そういった中で当然ですいろんな課題も出て参りますし、誰一人とり残さ  
ないということでもわかる職員とかですね横に寄り添って丁寧にツールの使い方であったり、そう  
いったものやっているとかがかたちになっております。なので、来年の4月1日、来年の頭には1番  
理想的な形としては、テレワークになじまないような仕事以外の仕事に関わる職においては、選  
択的にテレワークができるようなかたちにしていきたい野心的な目標も掲げていたりもします。

複業に関しても複業っても様々な、いろいろあると思うんですが、会社に言えないで潜伏するよう

な伏業みたいなものとかですね、いわゆるダブルワーク・ダブルインカムを取るための副業とか、報酬は出てこないけども幅を広げるための幅業みたいなものとか、今回のしみ会で皆様に議論していただきたいのは、幅を広げる幅業から上の複数の方の平行ワークみたいなものをちょっと深く議論をしていただきたいと考えております。

そしてこの副業ですねさらに細かく見てみますと、民と官って分け方でいうとですね、今回の審議会で皆さんにご意見をいただきたいのは、民から民へという副業は、本審議会では当然関係ございませんので扱いません。ただ、民間のプレイヤーの方たちが私たちの磐梯町に複業的に関わってもらうという民から官へという部分がまず一点ですね、今度は逆に私どもの職員が民に、地域の活動もそうですし、いろんな企業に複業的にかかることも可能性としてはできないだろうか？みたいな官から民へという議論、更に、今度はですね、官から官ですね、磐梯町と例えば和歌山県みたいな自治体同士における平行な複業みたいなことも議論していただきたいと思います。

以上で基本的なお話は終わりなんですけども、今回の審議会で皆さんに集まりいただき議論いただきたいのかという、一応今 DX 戦略室においては、これを実践はできております。ただしですね、やはりこれはあの高度に阿吽の呼吸でやっているとところがございまして、これを全庁的に広げていくにあたりましては、やはりちゃんとした指針だったルールというものをしっかり作っていかねければ、問題が顕在化してきってしまうと考えております。ですのでこういった部分というのは先行して進んでいる自治体というのもございますけれども、いろいろ調べてみますと、課題を抱えている部分は、同じというところがありますので、こういった部分のモデルというものを磐梯町から作って日本の自治体の複業、そして、テレワーク官民共創のモデルを作っていけたらと思っていますので、皆様のご助言、ご提案、ご意見をいただけたらと思います。以上私の説明となります。ありがとうございます。(CDO 菅原)

・ ありがとうございます。今の説明で少しお聞きしたいこととかご意見とかあればお願いします。挑戦的な取り組みなのであまり型にハマらずにやってもいいのかなと思いましたので。ざっくばらんにやれればと思います。(小田)

・ 一個ご質問なんですけど、先程のデジタル変革室室ではできているんですが全庁的にはできてないとの話だったんですが、デジタル変革室では何人ぐらいがいて、どんな人たちができている、どんな実績を持っているかっていうのを教えてもらってもいいですか(尾崎)

・ はい、今デジタル変革戦略室というのは、正規のかたちでいうと CDO から、プロパーでいうと室長と係長がおりまして、あとは CMO とかですね、星もそうなんですけれども、兼職というかですね、他の課と兼任をているかたちで、おおよそ全ての課の最若手の職員がデジタル支援員というかたちで各課との連絡調整で兼任をしてるかたちになっています。政策課に情報システムを所管する情報係がございまして、その人間も兼任するかたちになっていて、今日、委員の枠で参加していますが、五十嵐さんも地域おこし協力隊の枠で、東京都磐梯町を行ったり来たりしながら複業的に、戦略室の中に入っております。アジャイル的に広報の人が必要であれば広報の人を持ってこようと、そういうことをやってたりするので、そういった意味では今言った感じの人数感になっております。実践においては基本的に、テレワークとかを実践しているは比較的役場の職員というよりも、私をはじめとする平行人材の方がそういったものを比較的实践しております。ただ、職員も理論的には他の場所からやれますので、必要であればそういったかたちになってきます。(CDO 菅原)

- ・ 分りました。ありがとうございます（尾崎）
- ・ ありがとうございます。他にご質問ですとかご意見ある方いらっしゃいますか？（小田）
- ・ それでは、私の方から 1 点お聞きしたいんですけど、官と民との分けの話ありましたけど、民でどういうことを想定されているのかという所と、やっぱりそのすべての方を取り残さないっていう所のコンセプト素晴らしいと思っていて、やっぱり町民っていう所の大変大切にされているというふうに見てるんですけども、民のところにステークホルダーの方々というのはどのようなものを想定されていますか？（小田）
- ・ 民からの人とことですかね？（CDO 菅原）
- ・ それと、町民ってどういうかたちで想定されているかというっことです。（小田）
- ・ わかりました。先程の官民という分け方におきましては民は、多分にいくつものレイヤーがございまして、1 番分かりやすいのは、当然町は公の団体なので、NPO だとかそういった地域で社会的な活動してる民のプレイヤーの人たちや団体ですね、もう一つが、いわゆる企業ですね、営利企業を含めての企業体というかたちになります。それと、地域の中では、町民の皆さんたちも当然入ってくるイメージになって参ります。それが民のイメージですね。（CDO 菅原）
- ・ はい、ありがとうございます。（小田）
- ・ じゃあ、次の議題のほうにいかせていただきます。協議事項に移らせていただきます。これは順番に 1 つずつやっていくかたちのほうがよろしいんでしょうかね？（小田）
- ・ そうですね。この上の 3 つについては室長の方から説明をさせて、皆さんに一つ一つ確認をしていていただきたいと思います。（CDO 菅原）
- ・ 承知しました。協議事項 1 番の開催通知、情報共有におけるチャットツールの活用について、2 番の提供資料等のペーパーレス対応について、3 番審議会のオンライン配信とアーカイブ化について協議したいと思います。よろしく申し上げます。（小田）
- ・ はい、それでは私の方から協議事項の①から③までご説明をさせていただきます。まず①の開催通知、情報共有におけるチャットツールの活用についてでございますが、これまで本日の会議の開催等につきましても Facebook で行わせていただきました。今後ですね戦略室の方は Microsoft 社の Teams というソフトを運用して実務を行ってございます。これまでコロナ禍におきまして様々なオンラインイベントを開催してまいりましたが、全てこの Teams 中のチャットツールと会議システムを使って皆で共有しながら進めて参りました。このように、実績もございますので、これから皆さんにその Teams に加わっていただいて、この審議会の新たなチームを立ち上げたいと思っております。なぜこの Teams にするかといいますと、チャットツールを使えることと、資料を共有する機能を有している、あと様々なプロジェクト等におきまして Teams ですとの加筆修正が皆さんどこからでもできるということがあります。これらの理由により Microsoft Teams の活用をご提案させていただきます。ありがとうございます。
- ・ 続きまして②の提供資料のペーパーレス対応についてということでございますが、サイドブック

スというソフトを使わせていただきたいと思います。これはクラウド上の本棚になりまして、今現在町議会のペーパーレス化におきましてもこちらを活用させていただいてございます。こちらにつきましては包括連携協定によりまして東京インタープレイさんの方からご提供いただいているサービス内容となっております。このサイドブックスにつきましては、メリットといたしましてはメンバー内で資料が共有できる、あとですね過去の資料も見返せることができますので、ぜひサイドブックスを導入させていただきたいと思っております。

③の審議会のオンライン配信とアーカイブ化につきましてでございますが、本日も試験的にYouTubeで全世界に向けて流させていただいております。これにつきましては引き続きですね第2回、第3回と実行を重ねさせていただきたいと思っております。あと今回の議事録にきましてまだ協定中でございますので、今回は係長が手作業によりまして議事録を作成するようになるかと思いますが、今後はですねAI議事録サービスのご利用させていただきまして、そちらの方で議事録等の作成いたしまして、作った会議事録につきましてサイドブックスのほうに上げていきたいということで、後から皆様が見返りできるようなシステムを構築したいと考えておりますのでその辺よろしくをお願いいたします。私から以上3点ご提案申し上げますのでよろしくお願いいたします。(穴澤)

- ・ 穴澤課長ありがとうございます。皆様へTeamsとサイドブックスを使うという点についてご意見等ございますでしょうか？(小田)
- ・ 大丈夫そうですね。みなさん、ではそのような形で。議事録のほうは最初方は手作業でということなんでしょうけど、いずれはAI議事録を使われて自動生成となるという話ですね。はい、ありがとうございます。よろしければあのそのような形で決めさせていただければと思います。(小田)
- ・ 続きまして、協議事項の4番磐梯町の官民共創の取り組みについてお願いします。(小田)
- ・ はい、ここからは逆にフリーにどんどん皆さんの自由なご意見をいただいてというのと、もうひとつ、来月以降を進めていくんですけども、どうしたところから進めていったらいいのかなんていうのもお話しできたらなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。(CDO 菅原)
- ・ これはどういったかたちで進めたらよろしいでしょうか？テーマとかあったほうが、進めやすいと思うんですけど。(小田)
- ・ それでは、私どもの課題意識を共有させていただいてから進めた方がいいと思いますので、ちょっと先程の説明を補足して課題意識を共有させてください。まず官民共創の取り組みについてなんですけれども、今本当に良い形でいろんなプロジェクトの人たちと色々な人材が磐梯町に関わってくださるようになっております。ただ一方で私どもが官民共創という言葉をあえて使っているのは、今までの官民連携というかたちだけ一緒であって実は向いてる方向が違うというものではなくて、ビジョンとかミッション一緒にすり合わせお互いがちゃんとwinをとって物事進めるというかたちで進めていきたいと思ってるんですけども、やはりなんかこのうまいかたちの指針を作っていかなければならないという部分がございます、今試行錯誤してるんですけども、そういった部分に関して委員の皆様にはですね、そういったご知見と、こういった取り組みがあるよっというものがあればまたどんどん共有をしていただいて、こういうのを調べといていただければ、調べて



次の審議会等等に上げて参りますので、それができたらと思います。基本的にはこの3月ですね、今年度中にここのしっかりしたフレームを作っていくのアウトプットに磐梯町ではしております。

2点目の複業についてなんですけれども、複業もですね、今日の委員の皆様の中には官における複業やってる方もいらっしゃると思うんですけれども、今の行政の既存の報酬体系であったりだとか、様々な対応が、今の複業のあり方にマッチしなくなっている部分がございます、そういった意味においてそこをうまく行やっけていけるような取り組みにしていきたいと思っております。なのでそういったものも皆さん知見であったり、こういったやり方だといいいんじゃないのみたいなところがあれば、そういったものもご共有いただきたいと思っております。さらに、今度は官から民へという部分なんですけれども、官から民への複業というのは、結構政府等々も進めていくという形で指針を出してるんですけれども、やはりまだ非営利の団体に対していいよみたいなかたちなんですけれども、ここもですねもっと意欲的に言えば、営利企業であっても、その営利か非営利かが企業体の元ではなく、社会的な活動してるのであれば、それが営利企業であってもそれを報酬をもらってやっていくみたいなことも可能なのでは。ちょっとこういったところ意欲的にご議論いただけたらなあと思っております。

最後のテレワークについてなんですけれども、これらを踏まえてないんですけれども、星も子供が生まれて子育てをしているという話もしましたが、磐梯町の役場の中でも職員が最近お子様が生まれるよという職員もおりまして、やはりその女性のよくM字カーブのみたいな話もありますけど、あいった部分ってやはり役場が働き方としてその女性が働きやすいかたちになっていないんじゃないかということがひとつの理由じゃないかと思っております。なので、女性が本当に自由に自分の思ったとおり働きやすい環境っていうのはなんなのか？最高の形をまずビジョンとして掲げた上で、その上でこういったテレワークだとか複業だとか、いろんな要素の組み合わせでそういったかたちを皆さんの中で意欲的に示していただきたいというふうに思っています。磐梯町におきましては、そういったかたちを可能な限り実践をしていきたいというふうに思っておりますので、もっと言えば、日本で最も女性が働きやすい役場、磐梯町、これぐらい言えるよう、そんなかたちになります。町長から補足がございましたらよろしくお願いします。(CDO 菅原)

はい、今の話は良かったと思います。やっぱり複業っていう所はこそそやるような側面があったんじゃないかなと思っておりますけれども、やっぱり自由に複業ができる仕組みは必要ですし、官から民っていうのはなかなか面白いんじゃないかなと思っております。私は民から官に来てはいますが、お互いの良いところとか、悪いところとかは、どっちかに行かないと見えないというところもありますので、そういった意味では、逆に行政側の人間が民に行き行って勉強したりですね、逆に行政のノウハウを伝えていったりするというのは大切かなと思います。

また、役場の中を見ていると、女性はほんと働きづらい環境ってめちゃくちゃあります。なのでこういった環境を変えていくだけでも新しい取り組みなのではと思っていますし、休憩室すら女子にはないっていう状況になっているんです、こういったところをそういった目線で、皆様にアドバイスして頂くという事は大切なことだと思っていますし、ハードだけではなくソフトという意味でも仕事ができる環境を整備していく、基本ベースとなる環境は整っているんです、そこから1歩2歩進めていく環境を整備していけたらいいじゃないかと思っておりますので、ぜひ皆様からアドバイスをいただけたらと思います。(町長)

- ・ はい、ありがとうございます。今お話を聞いていると、今回の審議会全体で見ると、やっぱりそのいろんなテーマとアウトカムが何であって、そのロードマップを一旦作ったほうがいいのかなんて思いましたんで、こういうことを最終的には成果として得たいってところと、どういう段取りでやってきましようかってところをみんなで決めをつくったほうがいいのかと思います。ただ、今回初回ですし、今一旦お話をいただいているので、どちらかという、今までこうだったよねというところを一回はずして、みんなの働き方とか生き方とかあるべき姿の夢を語り合ったちゃうのいいのかなって今思ったんですけど、まず、その何ていうのでしょうか。こうあらねばならぬじゃないもので、1階今日は議論するのはいかがでしょうか？(小田)
- ・ はい、ありがとうございます。この審議会の存在自体が今までのもう全てが決まってる審議会あり方を壊すという目標もございますので、これをライブで見ている方は、こんなにシナリオが決まっていなくてこの審議会は進んでいるのかと驚かれると思うんですが、むしろ決め打ちでやる審議会であればやる必要がない、税金の無駄遣いであると私どもは思っておりますので、ぜひ、会長の差配のとおり進めていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。(CDO 菅原)
- ・ どうしましょう。皆さんそれぞれ語っちゃいましょうかね。(小田)
- ・ 職員全員にキャリアプランを書いてもらっている。キャリアプランもやっぱりその仕事をしていく上で大事だと思っていて、職場に長い時間入るのでその仕事が面白くないっていうのが1番の問題だと思っていて、いかに自分の仕事を面白くさせるか、私は自分で面白い仕事しかやりたくはないので、どうしたらいいかというところを考えてもらいたいと思ってやってるんですけども、あのやっぱり目標持ってもらう仕組みも本当に大事だし、その中で選択肢を広げてあげるといことも大切だと思っていますので、そのへんも何かいいアイデアがあったら皆様にアドバイスをいただきたいと思っています。(町長)
- ・ じゃあ、今日は今皆さんが思ってることとか、働いていてこうだったらいいなってこととか、今こうしてますみたいなことをざっくばらんに語り合う形で進めましょう。最初に話せる勇気のある方いらしゃいますか。(小田)
- ・ 尾崎さん、お願いします。(小田)
- ・ はい、ありがとうございます。語ってる方向性が間違ったら途中で言ってください。私、自分で会社をやりながら生駒市で公務員としても働いてるんですけど、別にあのどっちが副業、どっちが本業、または官にいる民にいるという感覚がほとんどなくて、基本的には尾崎えり子として生きているので、1番自分が達成したいことに対して、すべての肩書きもすべての役職も私にとっては手段でしかないから、そのタイミングで1番使える武器を使うってだけという風になると、なんかこの時間は公務員の時間とか、この時間は社長の時間とか、この時間は自分が母親の時間とか、時間で区切られるものでもなく、来た状況に対してはばって出る刀が何かみたいな感じなので、時間で分けるのが1番わかりやすいなあと思いつつ、私の達成したいビジョンに置いて時間の分け方はすごく難しいなあと考えてます。日中すべての時間、私は夢のため、夢のことを考えていて、それを考えると、ほぼほぼ全ての自分の役職のプロジェクトを回していることになるので、一体今どの時間で何を回しているんだろうっていうのは、私の中でも別に明確ではない。なんかすごく難しいし、

なんかもうちょっとやり方がないのかなあっていうのは思ってます。はい以上です。(尾崎)

・ ありがとうございます。私、今の話を聞いてちょっとだけ喋りたくなってしまったので、しゃべってよろしいでしょうか。時間を分けるという話があったんですが、私もいろんな自治体さんや企業さんの仕事をしていると、これこの企業さんの仕事っていうのがあんまりないような気がします。特に自治体さんは共通のテーマとか共通の課題が多くてですね、本当はこれ一緒にやっちゃったほうがいいのになあって結構あるんですね。本当は磐梯町さんとどっかの町さんのを一緒にやりたいなあと思うことがあって、ちょっと複業のテーマからずれてしまうのかもしれませんが、混ぜるっていうのも少し視野に入れていくといいのかなって思っております。これに関連してご自身はこうだっというのでも結構ですので、次の方どうぞ。(小田)

・ 混ぜるっていう考え方は、とても素敵だなとっていて、ある部分でしか考えないとほんとに問題解決に行き詰まってしまうのですが、例えば、私は障害を持っている障害者なので、障害者だけの問題と捉えてしまうとなかなか行き場がない、解決方法がないっていうふうに頭打ちになってしまうんですけども、例えば、町全体で考えてみたりとか、同じように悩んでいる少数派の人たちと同じように連携して問題を解決していくとか、つながるとか、まとめるっていうところにひとつ解決策があるような気がするんで、今のご意見とても素敵だなと思いました。こうやっていろんな分野の方々が今日もいらっしやいますし、これからも一緒にやっていくので、つながるとかちがう方が集まることによる何か新しいイノベーションみたいなところで、今までにないものを作って行けたら面白いなあと考えておりました。ありがとうございます。(小澤)

・ ありがとうございます。混ぜちゃう早いですよね。(小田)

・ あっちにも似たような問題があったよなあっていうのは結構と思いますので。(小澤)

・ そうするとなんかお互いがお互いのあの当事者になれるみたいところありますよね。(小田)

・ そうですね。何か複業というところで、私もあのいろいろなことをしている方かなあと思ってるんですけども、さっきキャリアプランというふうにお話があったんですけども、会社の中だけのそのキャリアプランではなくて、自分の人生をいかにハッピーにして行くかみたいな、欲張って何でもしていいだよ、女性かもしれない、障害があるかもしれない、何か制限されているような立場かもしれないけど、いろんな枠を取り払ってあなたは本当に、あなた自身で何がしたいですか？っていうのを考えていって、その夢を実現するようなものを体制として作るのか、制度として作るのか、社会として作るのかっていうのを考えて行けたらとても素敵だと思います。(小澤)

・ 職員ってやっぱり民間の会社に入った方が目標が明確になってもんじゃないかと思います。職員といった時点で、住民のためという基本的な考え方はあるのだけでも、実際に目標というものが、毎日の仕事に追われていく中で、ないという状況になってきているんじゃないかなとて思っています。キャリアプランを作ってもらっている大前提は、磐梯町っていう職場だけに限ってはダメですよという話をしています。自分の夢を追うのか、自分の中で将来的にこういうことをしてみたいと思うのか、それによってステップって変わってくると思うし、今やっている仕事自体ももしかするとそのステップの一つになるかもしれない。職場の中でも行きたいところも変わってくるかもしれない。なので、自分の夢というものをいかにキャリアにイコールして行くことを考えてほしいと

言っているんですけども、やっぱり、民間でもやりました、行政でもやりましたけども、行政の方がまだまだ堅い状況があるので、枠を取っ払って混ぜるということが、連携するということがいろんな仕組みでできるようになってくると、非常に行政の皆さんも楽しい仕事ができるようなかたちになってくるんではと思っています。(町長)

・ 一瞬だけいいですか、私、夢って言うときれいすぎて、欲って言われた方がすごく出てくるんですね。なんかすごく崇高な夢を持ってないといけないんじゃないかとか、これは、子供たちに対してキャリア教育をする時も思うんですけど、何かもっと欲を持ってよくて、出世したいっていう欲があれば、それはその人のキャリアプランがあるだろうし、欲ってもっとすごく人間にとって大事なもので、きれいに語りすぎるキャリアプランって本質では無いような気もしているので、そこをもっともっと認めてあげられるようなキャリア設計みたいなのができると、すごく職員の方々も自分を前に出しやすいのかもしれないなって、私、公僕って言葉がすごい嫌いで、なんかそういう風に自分のことを公務員の人たちが思っちゃうと、何も自分の欲が出せないんじゃないかという、イコール何も発揮できないんじゃないかと思っちゃうので、言葉のところもなんかちょっと違う言葉を使ってあげると変わるのかなと思いました。すいません喋りすぎましたどうぞ。(尾崎)

・ ありがとうございます。僕もほとんど欲で動いてるようなもんですから。言ってみれば、夢と言いながら本当は欲なんだろうねと思いました。ありがとうございます。(町長)

・ 私の個人的な感想かもしれないんですけど、複業をされてる方って欲を体現されるてる方が多いっていうか、自分の大好きなことしかしないみたいなタイプの方が多と思うので、一個の団体で働いてしまったりとか、1個の組織で働くとなるとどうしても、その中で収まり切ろうとして自分を律するというか、自分の欲を出さないみたいなタイプが多いので、みんなでよくを出していきたいですねここは。(小澤)

・ はい、そうですねじゃあ皆さんの心の内をここに吐き出しながら、全世界に向けて発信していきましょうね。五十嵐さんの今考えてることとか、ワークスタイルとかその辺の話をぜひお願いします。(小田)

・ 僕は委員の中で唯一磐梯町出身だと思うんですけど、今東京の渋谷のQWSから参加してまして、東京に来た理由がまず磐梯町で学びたいことが近くになくて、それで僕はいわき市の学校に行きました。いわき市で工業系の勉強していたんですけど、県内につきたい仕事がなく東京に今出てきてます。それで東日本大震災などがあってもう一度、福島に関わりたくなあって思った時に関わり方がちょっとわからなくて、僕はほんとにラッキーなんですけど佐藤町長と直接連絡を取れる関係だったんで、それで相談をさせていただいて、今は地域おこし協力隊というかたちで関わらせていただいております。僕のようにですね、町に戻りたいとか思ってる方もいると思うんですけど、なかなか引っ越しとか移住って難しいと思うんですね。なのでこうしたリモートワーク等で町に何かしらの形で関わられるような間口を増やしていけるとすごくいいのかなあと考えております。僕も複業人間でして、結構いろんな企業さんで僕も欲張りなので、ほんとにいろんなドメインの仕事をしています。昨日はコスメブランドの仕事をしていたり、今日はこのあとYouTubeのライブ配信があったり、ドローン飛ばしたいとか、そういうような自己実現できるところが今の社会だし、フリーランスだし、それを提供できるのが磐梯町の文化と土壌なんだと思うんで、自己実現できるよう

なチャンスも提供できたらいいなと思っております。以上です。(五十嵐)

- ・ はい、ありがとうございます。五十嵐さん、町の出身の方で町に対して何かしたいなあとか、関わりたいなとか思ってる方って結構いらっしゃったりするですかね。(小田)
- ・ いると思いますね。磐梯町の小学校が同級生が30人ぐらいしかなくてですね、その30人とも今連絡ほとんどとってなくて、みんながどう思ってるのかちょっとわからないんですけど、でも、東京出てきた地方出身の友達はやっぱり町に戻りたいっていう声はすごく多いですね。なんで僕がこういう活動をしているっていうふうになると、結構、みんな興味を持ってくれる傾向が強く、特に30歳位になってくると、今僕が30歳なんですけど、何か多い気がしております。そういう人たちを受け入れる官民共創プロジェクト等を作って行けたらなと思っております。(五十嵐)
- ・ ありがとうございます。町に縁のある人たちっていうところで、今後いろいろ考えたいですね。続いて、玉置さんお願いします。(小田)
- ・ たぶん、今日参加されてる委員さんの中では唯一、専門公務員って言い方をすればいいのかな、そういう立場から申し上げると、官から民へというお話がいろいろ出ている中、公務員がなかなか外に踏み出せていないんじゃないかなあというのはまさにこのとおりだと思う一方で、若干、そうはいってもどっかで線引きはあるんじゃないかと思っている方の人なので、こういった議論になると若干ブレーキを踏むかたちになってしまうのではないかと心配はしているんですが、いろんな方法で町に関わる方法があればとの話がありましたが、そのことは、まさにそのとおりだと思いますし、その範囲でご迷惑にならない範囲で議論に参加できればと思いますので、よろしく願います。(玉置)
- ・ どっち側のご意見も大切だと思います。なので、ここは、皆さんのそういう思いをどちらも側もブレーキかけないでどんどん出し合うのが価値になっていくと思うので、玉置さんもしかしたら1人だけの場合もあるかもしれませんが、その時も勇気を持って「いや違うよ。」とっていただけることが、すごい大事だと思います。(小田)
- ・ ざっくりこんな感じで今あの皆さんの思ってることを出させていただきましたけど、今後どうしましょうか？(小田)
- ・ そうですね、あと中島委員の方にですね、お話しいただいてからかと思います。(CDO 菅原)
- ・ 中嶋さん、申し訳ないです。お願いします。(小田)
- ・ 私は今磐梯町に住んでいる町に住んでいる主婦と言ったら主婦なんですけれども、私も実はものすごい複業人間なんです昔から、私は20代中盤の時に、長崎出身で長崎の方で30人ぐらいの託児所を作って運営していたことがあるんですけども、それだけにとどまらず保育所運営しながら毎週木曜日は長崎の市民FMというところでラジオDJを1時間生放送でやってたりとか、ある時はウェブデザインすごい勉強してたので、ちょっと教えに行ったりとか、昔から自分の好奇心に沿っていろんなことをやってきてたんですね。  
磐梯町に結婚してこっちに来てから、磐梯町にまず全然馴染めてない状態でたまたま縁があって町の役場に、町民課のほうに臨時職員として入ることができて1年間働いたんですけども、じゃあ

その時に私は臨時職員で町民課で働きながら、こっそり伏業してまして、こっそり翻訳の仕事もやってたんですね、でも実はそれが他の職員の人に知れ渡ったことがあって、中嶋さん英語が少し使えるのかなってということで、磐梯町がカナダのオリバ市と姉妹都市なんですけども、その姉妹都市の皆さんが来られる時に、通訳のお手伝いをさせていただいたりとか、記念碑を作るとときにちょっと英語で表記についてちょっとお話をさせていただいたりとか、町民課の職員ながらちょっと課を渡って政策課の方と一緒に仕事をさせていただいたりとか、そういう機会を得ることができたんですね。

それもあって磐梯町の中に、役場の中に少し馴染める機会をいただいたりとか、今の自分の能力を生かしてプラスアルファ何か仕事をするっていうことができたのが、今ずっとそれがめぐりめぐって、この機会、私が今呼んでいただいたことにも少しずつつながってののかなのかなあと思うんですけども、あのそういった感じで、役場の皆さんも一生懸命自分の課の中のお仕事をされていたんですけども、ちょっとそれこそこういうこと勉強したいっていうことで、何かあとひとつプラスアルファ何かができたら、本当にそれをずっと広げて行って、ひとつの大きなことができていく感じになるんじゃないかなと感じておりました。

ていうことで今は町でひとつの主婦としてママさん達と磐梯町、先程五十嵐さんが学びたいことがなかったおっしゃってましたけども、私は子育てをしながら、磐梯町で習い事をする環境がないって思ってたんですね、例えば体操教室がなかったりとか、スイミングスクールがないというのがあったので、ママさん達の話を知ると、会津若松まで行かないと習えないよねとかいう話があったので、今回お友達のママさんと一緒にスイミングサークルっていかスポーツサークルを幼児向けに作りまして、体操教室とスイミングをすることになったんですけども、それも実際スイミングを教えてくれるインストラクターだったりとか、体操教室を教えてくれるインストラクターは実は町民の中に人材がいて、もと体操教室インストラクターだったり、もとインターナショナルスイミングスクールのインストラクターだったという方がいらっしたんですね。

そういうかたちで実は、町の中にも自分の能力を活かしたいけれども、それをする場がないという人たちがたくさんいるんだなっていうふうに気づいたので、スイミングのスポーツサークルがきっかけではあるんですけども、きっと町の中に、たった 3000 人くらいしかいないけれども、実は特技を持ってるけど生かされてないって人たちがたくさんいると思うので、そういうところも話し合いを通じて、こうしたつながりを通じて、何か作り上げて行けたらいいなとは思っております。(中嶋)

はい、ありがとうございます。やっぱり職員の方々がどういう風に働くかっていうところもあるんですけども、その中でやっぱりそのいろいろ考えていくと、地域にいた今は別のところで働いている方であったり、今実際地元でいらっして、なんだかの思いとかスキルを持ってらっしゃる方ってたくさんいらっして、そういったところも含めていろいろどうしましょうかって話ができるとすごく面白い感じになりそうですよね。(小田)

きっといると思うんですね。実は結構すごい能力を持ってる人たちが、そういう場が磐梯町にはなかったってのもあるので、そういうのも活かしていけたらいいなあと。やっぱり生きがいにもつながっていくのかなと思いますね。(中嶋)

やっぱり仕事してていろんな人と関わってて思うのが、やっぱり町とか公共に対して関わりた

い、何かいいことしたいと思ってる方ってすごくたくさんいらっしゃるんですね。そうした思いベースの思いがある人たちもいらっしゃるんで、そこも含めて少し今後議論ができればいいなと思います。(小田)

・ 小田さん思いの部分で行くと、私はの官から民、民から官に行っていて思うんですけど、思いの部分の職員の思いの部分ってなかなか外に出ないじゃないですか。あの窓口とかで話すことがあっても、その人がどんな思いでどんな気持ちで日々あの町のことをやってるのかっていうのって、外からはやっぱり全然見えなくて、体中に入って初めてめちゃくちゃ大変な仕事で、この毎日のルーティーンみんなの命と安全を守ってるんだって思うと、外からなんでかわんないんだよって思っていた私ほんとにごめんなさいっていうのがすごいわかるんですね。わかるからものすごくいいんです「ほんとにすごいですね」って、そう言われて職員たちも初めて自分たちの仕事に誇りが持てたりだとか、自信が持てたりとか、もっとこういうこともできるんじゃないかって思えると思うので、混ざることによって自分にとっては当たり前だったことがすごく周りから評価される、違うからこそ評価されるみたいなのが、職員の人たちも必要だし、官から民から行った人たちも、ただただ何か全然動かないし公務員ってこうだよってひとくくりにしていうよりも、彼らが背負っているものすごく大きいものと、それを大事にしながらどうやって変えていくのかっていうその発想をやっぱり民側に持つことって、官民共創においてすごく重要だなと思っているので、先ほど皆さんのお話を聞きながら、思いの部分がより町の人、民の人、官の人、出せるような場があると何かもっと良い循環ができていくのになと思いました。(尾崎)

・ 今の話に関連して何かご意見とか、私こうしてみたいなのある方いらっしゃいますか。(小田)

・ 行政の職員の方ってあんまり尾崎さんのおっしゃったように自分の大変さとかそういったものを外に出す機会もないので、自己評価って言い方アレなんですけど、低い方も多いのかなっていう風には思うですよ。でも、表に出てこない所でも一生懸命やってる方もたくさんいて、私はどちらかという縁の下で力持ちの人たちこそが価値があると思ってはいるんですね。そこはみんな「頑張ってるね、すごいね」って言ってあげたいと思ってます。(小田)

・ 尾崎さん、行政の職員の方と具体的にはどのような関わり方をしていらっしゃるんですか。日常的にどんな接し方というか、それはどこでそういうところを感じたり発見したりするのでしょうか。(小田)

・ そうですね、今、私毎週1回のテレワークと、月にまとまって4、5回生駒市に行ってるんですけど、テレワークはすごい集中してそのプロジェクトの企画書とかをつくり、で、行ったらとにかくいろんな人達いろんな課の人たちと話すんですけど、テレワークでは聞こえないような、こっち側で子供たちを守るためにどうするかっていうのを本気で議論されていたりだとか、その間に、こちらでこれから未来どんな学校にしていくかってこと語られていたりだとか、日々日々回すこともある中で、セーフティーネットと共に未来を作るってことを、教育指導課の中でやられてるっていうのは、行って雑談的に頭の中に入ってくる情報で得ることができるので、全てがテレワークで良いとは全く思わなくて、テレワークで集中できる業務、また行かないと知り得ない情報みたいなものがあるので、そういうのは行って、その場に座っていろんな話を聞いて、めちゃくちゃすごいなって、私すごい目立つの好きだから、私がやれば私が注目を浴びるけど、でも、ほんまに

それができるのはこの人たちが土台を作ってるからなんだなってことを、ひしひしと感じて「ありがとうございます。」っていつも言いながら5時間かけて帰ってます。(尾崎)

- ・ そばに行って、そこでシャワーのように皆さんの会話を聞いて、それでって感じですね (小田)
- ・ はい、そうです。(尾崎)
- ・ これは何かちょっとヒントになるかもしれないですね。ありがとうございます。(小田)
- ・ 僕からもちょっといいですか。すごく恐縮な話なんですけど、僕の就職先から1番先に消えたのは公務員なんです。ほんとに申し訳ないんですけど。で、今何でかっていうと、やっぱり事務作業ばかり、住民票とか届け出するぐらいしか役場との関わりがなかったので、ちょっとよく何やってんのかわからないというのが、子供の時の僕からすると正直なところでした。ただ、こうやって地域おこし協力隊とかで関わっていると、尾崎さんとか中島さんがおっしゃるように、役場の方々が凄く楽しく頑張っている方もたくさんいて、それをちゃんと表現していけたら、町の魅力になるのかなぁと思ってます。その表現の手段ってというのがやっぱり、今の時代すごくたくさんあって、zoom だったり、YouTube だったり、SNS というのが今ツールとしてあるので、これらを有効活用できるのも、磐梯町の DX 戦略室だと思うんで、名物公務員とかいても面白いなあっていうふうで、そういうふうにならばずっとエンタメ要素も加えて面白く伝えていってあげると子供の夢にもなるし、磐梯町の魅力にもなるのかなぁと話を伺ってて思いました。(五十嵐)
- ・ はい、ありがとうございます。職員の方の働いてるところを、他の町の方とか、外の人とかが、少し知るような機会が持てたら、それはひとつの働き方というか、やりがいか、さっきの混ぜるって話にも通じるかなと思ったんで、これはあの1つのヒントというかテーマとして考えてもいいのかなって思ったんですけど、どうでしょうか？ (小田)
- ・ できれば視察とかじゃないほうがいいと思います。なんかめっちゃよそいきにみんながなるから。それよりも日常どうやって見れるかっていうところのほうが、なんか結構難しいけどそっちのがすごい価値があるので。日常を見たいなあって思います。(尾崎)
- ・ 守秘義務のところそのへんの情報の兼ね合いもあると思うんですけども、あ可能性としては今日は広げようというところなので、あってもいいのかなって感じはします。(小田)
- ・ 私のイメージですけども、やっぱり官っていうのは閉ざされた感じがして、守らなければいけない情報というのもたくさんあるので、ほんとに明るみに出てないことが多いと思うので、そういう意味で見せれる所に触れられ、中身も見れるってなったら、興味をもたれる方も多いですし、官民ってところのつながり、それから複業ってところが、より身近になっていくんじゃないかなと思います。(小澤)
- ・ ありがとうございます。中嶋さんなんかは、今お仕事されてた中で、どうでしたか？今のお話に関連して。(小田)
- ・ 磐梯町職員の方はすごいユニークな方が多いので、スポットライトを当ててあげることで、自分自身の仕事にも張りが出ると思いますし、今まで考えなかったことをちょっと想像力を膨らませい



こうかなって考えられたりとかするんじゃないかなと。実際あのもったいないなと思う感じもあるですよ。この人、こういう人たちはこんな面白いことを考えているのに、これがスポットライト当てられないのはもったいないなあというのが実際あったので、もう、ぜひぜひ、どんどん、どんどん、そういう人、そういう職員の方には当てて欲しいなと思いますね。(中嶋)

ありがとうございます。玉置さん、ご意見ぜひお願いします。(小田)

そうですね、やっぱり公務員って、すごく閉ざされた世界であるというのはおっしゃるとおりで、僕も公務員になったのは割と最近の話なんで入ってみると、それまで触れたことのなかった何か情報みたいなものがバーアと一気に入ってくるですよ。それをなかなか外に出すことができないってことは、先程守秘義務の話もありましたし、出したことによって後から誰かに何か言われるんじゃないかいうのもやっぱりいろいろあったりするので、より後ろ向きだっというのは、おっしゃるとおりかと思います。必ずしもそれが出せないのかって言われると、そうでもないんじゃないかなっていうの結構実感として持つところがあって、さっき町長がライブカメラをつけたらいいんじゃないのか？みたいなことを書かれておりましたが、それもなかなか面白いなと、少しでも公務員がこういうことやってるんだよっていうの知っていただく機会が増える事はすごくいいことだなと思います。(玉置)

ありがとうございます。(小田)

玉置さん、ご質問してもいいですか？(尾崎)

どうぞ。(玉置)

公務員って私みたいに目立ちたがり屋ばかりではないというか、むしろ逆の性質の人が多そうで、「てるんですか？」みたいな出ることにするなんていうでしょう、やっぱりあんまり「イエー」って感じの人たちが多くなさそうなイメージなんですけどどうでしょうか？(尾崎)

おそらくそうですね、でもそれって性格的なものあるんですけども、出て何かを発信することによって、何かをやっぱり言われるんじゃないかっていう、手っ取り早く言われるのが、公務員の信用失墜行為の禁止に反するじゃないか、ちょっと僕もそれを言われたことが一回あったりとかして、いろいろやっぱり法規制であったりとか、色々なものに阻まれて、なかなかポーンと口に出していくのが難しいと思っている、公務員は多いんじゃないかなあと思います。あくまでも思っているであって実際は違うのかもしれないですね。(玉置)

なるほど、ありがとうございます。(尾崎)

佐藤町長にお話して聞いても大丈夫ですか。お聞きしたいんですけど、公務員って、今まであるべき公務員とこれからこうあって欲しいみたいのところって変化とかあったりするんでしょうか。(小田)

今の新しく望む公務員像というのは、公務員ってどうしても法的な規制とか守らなければならぬことはあるんですけど、やっぱり攻める公務員っていうね、ものを言う公務員になっていったほうが良いと思っている。

公務員って何か知らないけど、法的にとか、条例とかねそういうところに定められた以外に、いろんな規制を勝手に作ってんですよね。今までの中で。例えば町長に 3 回お茶をだなければいけないとか。そうした勝手な制限をつくっている。そういうのを全部とっばらっていくべきで、そのために、本当に守らなければいけない部分はここです、あとは全然関係ないです。と、自由に自分たちがやりたいことって何なのか、自分たちビジョンを、各課のビジョンを明確にした上で、町民起点に対して何ができるか?もうそれ一個でいいんじゃないかなと、課として、係員として何ができていうことを自由に言える文化って非常に大事だと思っているんですよね。

私に来るメールで何通だと思えます。星野リゾート時代も 1 日 100 件ぐらいありました、今は 3 通来たらすごいです。チャットは基本 DX としかやってないから、そういった意味で何でコミュニケーションをとっているのだと言ったら、結局、コミュニケーションとっている場面が少なかったりするんですよね。それは勿体無いことで、自分がああしたいんだ、こうしたいんだという意見を述べ合う文化をもう少しつくって行って、課長だろうが、別に町長だろうが全く関係なくて、やっぱりそこは議論をしていく、自分が納得いかなかったら課長だろうが、町長だろうが、文句を言う、そういう文化にしていけば、いろんなこと表面に出てくるし、いろんなことが課題として上がってくるだろうし、それに対してみんなでより良い方向を決めていく、そこにいろんな人が入ってきてワイワイガヤガヤやることによって、より良いものができてくる。それは、最終的には町民のためなんですよね。そういうような役場の職員の将来像にしたいと思っております。何でも言える文化です。

今でも町長様って書いてくるんですよ。様ってなんでかという祭り上げられているんですよ。神輿に乗っている。そうじゃなくてリアルに言ってこいと、言ってるんですよ。ダメならダメと言えるようになったら、町は全然変わっていくんだなと思えますね。(町長)

はい、でも長がここまで言うてくださるんだから、もう安心して言えますよね。私たちも安心していろんな、ちょっと飛んだ意見も言えるのかなと思います。よろしくお願いします。(小田)

ありがとうございます。ほんとに今日も活発な私どもの想定を遥かに超えるあの議論をいただきまして、本当に日本の公文書の中に残るには、前代未聞の議論になったと思えるので、本当に私たちの望むところでございますので、ぜひ、法律条例に反するもの以外は全てやっていくというのが私たちの考えですので、ぜひそういったものを後押ししていただきたいと思えます。先ほど会長よりもいただきました中で、次の審議会までに、私のほうも進めたいロードマップ等々を、可視化してどういったものをご披露いただきたいのかというものを準備させていただきたいと思えますので、それはこちらの方で対応させていただきます。それ以外にもですね委員皆様からもこういったものがございましたら、チャットツールなどを使いまして私どもにご連絡いただけたらと思えます。最後に室長の方から次の審議会の日程等も含めて事務的な連絡をさせますのでよろしく願いいたします。(CDO 菅原)

はい、ありがとうございました。その他ということで私の方から 2, 3 相談を申し上げたいと思っております。12 月の審議会につきましては、ぜひ一度リアルで磐梯町のほうにお越しいただきたいという旨を最初の顔合わせの時に申し上げさせていただいてございました。皆さんのほうに事前にお送りさせていただきました次第の会 (3) その他のほうに記載をさせていただきましたが、2 つのパターンを考えさせていただきました。パターン 1 といたしましては、前日に情報交換会を開催いたしまして、次の日に審議会を行うパターン、パターン 2 につきましては、当日に審議会と情報

交換会を済ませてしまって、次の日は帰路についていただくというようなパターン、以上 2 つのパターンを考えさせていただきました。

パターン 1 につきましては午後 3 時ごろに東京駅を出発していただくと、若松駅に 18 時に到着しますので、それから情報交換会。次の日に審議会を開催いたしましてお昼前に終われば 2 時ぐらいには東京駅に着けるという流れでございます。

パターン 2 につきましては、昼頃東京駅を出ていただきまして、3 時から審議会を開きまして、夕方情報交換会を開催させていただきます、翌日帰路についていただくというような 2 つのパターンを提案させていただきますと思います。

- ・ 日程の調整ですね、具体的に調整さんの方を活用させていただきたいと思っておりますが、候補といたしましては、12 月の 11、15、16 あたりで後ほど調整させていただきます。本日はパターン 1 の方がいいのか、2 の方がいいのか皆様のご意見を拝聴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。(穴澤)
- ・ ご意見のある方いらっしゃいますか。日程次第ってところもあるかと思うんですけども。私は、日程次第でどちらでも大丈夫です。みなさんはいかがでしょう？(小田)
- ・ 問題ないです。小田さんとか、小澤さんとかのご予定をぜひ優先していただいた方が良くと思います。(五十嵐)
- ・ 日程次第でどちらでも大丈夫です。ありがとうございます。(小澤)
- ・ 私はもう既に 3 日とも予定が入ってしまっているのですが、今回はめっちゃ残念ですが、オンラインで参加します。(尾崎)
- ・ とりあえず、ちょっと日程もまたいくつか出てくるかもしれないので、今はとりあえずパターン決めのお話だと思いますので、またそういったかたちでチャットツール等で深くできたらと思いますので、よろしくお願いをいたします。(CDO 菅原)
- ・ はい、もう一点だけ私の方からお願いがございます。先ほどですね開催通知で Microsoft の Teams にさせていただくことに皆様のご同意をいただき、ありがとうございます。それには Microsoft のアカウントが必要になりますので、その辺後ほど Facebook の Messenger を使って皆様にご照会させていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。私から以上です。(穴澤)
- ・ ありがとうございます。これで全ての議事が終了ですね。はい、それでは本日の磐梯町官民共創テレワーク審議会を終わらせていただきたいと思います。皆様お疲れ様でした。(小田)

以上で審議会を終了し、閉会する。(16 時 25 分終了。)

